

久留米

高専
通信

2010年 63号

[MARCH 19, 2010]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米高専で過ごした5年間を振り返って

校長 前田 三男

地震とともに大学を脱出

九州大学に入学したのが1960年。私はそれ以来現在まで約50年間福岡市に住んでいますが、あんな地震に遭ったのは初めてのことで、願わくばそれは一生に一度のことであってもらいたいものです。福岡西方沖地震が起こったのは2005年3月20日、私が久留米高専に赴任する10日前のことでした。

普通のサラリーマンは部長か重役にでもならないと個室がもらえませんが、高専や大学では、ヒラ教員（当時は教官と言っていました）でも個室がもらえるのがいいところです。私は27歳でドクターコースを終えたあと、すぐ常勤講師にしてもらいました。大学では教授も講師も部屋は同一で、私は前任教授の部屋と立派な机や椅子をもらいました。その代わり、その部屋と机は私が63才で定年になるまで、使い続けることになりました。

地震の起きた次の日、大学に行ってみると、私の部屋では天井まで本が詰まった大型のスティール棚が倒れて、40年間愛用してきた机が真二つに壊れていました。それを見たとき私は「ああ、これで大学の生活は終わったな」と思いました。それからの1週間、長年の垢が詰まった教官室の掃除と、地震の後片付けが重なって、何とか久留米に「脱出」したといった感じでした。

普通のサラリーマンに比べて、高専や大学の教員は転勤が少ないのが取り柄でしょう。私の場合はそれが極端で、長崎の高校を出て九州大学に入学して以来、1年間ほど外国留学した以外は全く外に出たことがなく、久留米高専への赴任は生まれて初めて経験する「転勤」でした。ですから、久留米高専の校長室の立派な机の前にすわったときには緊張して、高専の新入生みたいな気分でした。

初めて経験した5年一貫教育

もっとも、私も大学をやめる前10年ほどは管理職的な仕事をメインにしてきたので、「仕事自体は大学と大差ないな」と思いました。高専と大学のいろいろな違いについてある程度分かるには1～2年かかったようです。なんと言っても大きな違いは、高専は高校生に当たる若い人たちを抱えている点でしょう。それまで私が大学の研究室で日頃つきあう学生といったら、大部分大学院の学生でしたから、これはたいへん新鮮でした。

高専の5年間一貫教育というのは、たいへんユニークなシステムです。高校生と違って、高専の学生には大学受験という重圧がないのは、最大のメリットでしょう。勉強するにしても、クラブ活動をするにしても、遊ぶにしても、高校生とは基本的な心がまえが変わってきます。この利点は学生諸君も大いに自覚して、最大限に生かして欲しいと思います。

学校を管理する立場から言うと、専攻科まで入れると7才も歳が違う学生を、一緒に管理することの難しさを感じました。確かに大学もドクターコースまで入れると9年間ありますが、思春期を迎える十代での心身の変化は、二十代のそれとは比べものになりません。

久留米高専はどちらかという、学生にすこし背伸びした教育をさせる伝統が昔からあるようです。これは悪いことではなく、学生がそれに対応できれば成長を促すのに効果的な方法です。しかし、それについていけない学生が増えてきているのが、心配です。肝心なのは知的好奇心です。これが学問をやる基本的な動機ですから、そういうものが芽生えないとどうしようもありません。学生諸君はぜひ高い志を持ってほしいと思います。

実際問題として、高専の学生は一般的に見て、大学生よりよく勉強するのは確かです。一般に高等学校の時間割は過密で、出席も厳密にとります。授業が実際にどれくらい効果を上げているかはともかくとして、学生はかなり強制的に授業を受けさせられ、それを受けることが当然の義務だという意識を持っています。高専の低学年の授業は高校生と同じようなもので、その意識が高学年になっても持続しているのを、高専に来て知りました。そのために結果として、大学生よりはよく勉強することになるのでしょう。これもまた5年一貫教育のメリットだと思いました。

教育と研究

私は大学に勤めている間は、何をにおいても研究が第一だと考えてやってきました。特に若い頃は、教育は「雑用」の一種だと思っていました。大学院生が相手の場合、彼らの前で手本になるようなよい研究をやってみせれば、それが最大の教育だと思っていました。高専では最近、創造性を持たせる教育とかPBL教育とか騒がれていますが、そんな風な特別な教育プログラムを考えなくとも、研究の現場では毎日のようにやっていることです。私自身もそれは研究を通して身につけましたし、学生に対してもいいテーマを与えて研究させれば、当然身につくはずのことだと思っていました。

高専では学生の教育が大学より遙かに重視されているのが、いちばん大きな変化でした。授業にしても、学生の実験・実習にしても、教員は大学よりずっと多大の労力をつき込み、きめの細かい配慮をしています。これは高等教育システムの中で高専の持つ最大のメリットだと思います。これまで私は大学の研究室に高専出身の学生や大学院生をたくさん受け入れてきましたが、勉学意欲の高さでは明らかに普通の高校から大学に進んだ学生を上回っていました。

確かに研究というのは、打ち込めば面白い仕事です。芸術と同じように、オリジナリティを追求することは、やりがいのあるエキサイティングな仕事です。しかし、歳をとってから客観的に眺めたら、その時点でたとえオリジナリティのあった研究でも、「遅かれ早かれ、自分がやらなくても、誰かがやっただろう」とも思えてきます。それに対して、教育の成果は10年先、20年先になって実を結ぶ息の長い仕事です。

例えば、私の研究室では今から30年ぐらい前、紫外線の高出力レーザーの開発研究を盛んにやっていました。その頃卒業した大学院の学生たちが社会に出て会社を作り、同種のレーザーを改良して、現在最先端をゆく45nmルール of LSI製造装置に導入しました。この装置のレーザー部は、この会社が今や世界シェアの30%をとるまでになっています。皆さんが使っているコンピューターでも、最新のコアチップはこの技術で作られています。これなどは、社会的な貢献度といった

観点では、その当時私がやった「研究成果」より遙かに大きなもので、当時の私の「教育成果」がいささかなりとも今に生きている例でしょう。

教育者の喜び

上の例ほど顕著ではなくとも、教育はその効果があとに遺産として残る仕事です。多くの卒業生が社会に出て、いろいろな仕事に就き、学校でならった知識や経験をもとに生計を立ててゆくと同時に、その仕事は社会的にも何らかの貢献をすることになります。その中で自分が学校でやった教育がはたしてどれだけ寄与しているのかわかりませんが、自分の教え子にささやかながらそういう自負と誇りを持ち続けることができるのは、学校教育者に共通した喜びでしょう。

もう一つ、長年教育機関での仕事をしていて幸せだと思うのは、毎年3月に卒業生を送り出すと、すぐまた4月には新鮮な表情をした新入生がやって来るというサイクルです。これは春が来れば新しい花が咲くという自然の営みに似ています。大学の研究室で、4年の卒業研究で研究室に初めてやって来て、2年間の修士課程を終えて、やっと研究らしきことができるまでに育ったときに、大部分の学生が卒業してしまうのはたいへん残念に思うのですが、一方で新しい血液が常に供給されることは、何よりも研究室の活性化に寄与しています。同じような喜びを、私は毎年高専の卒業式と入学式で、校長としての告示を読むたびに感じました。これは学校に働く教育者のみが味わう、他の職場にはない、幸せだと思います。

そういうことで、この5年間、久留米高専で若い学生諸君とともに楽しく過ごせたのは、この上ない幸せであったと思います。校長としてはたいした仕事もできませんでしたが、その間ご協力いただいた教職員・保護者の方々に感謝するとともに、久留米高専の今後の発展を祈念し、結びといたします。

～特集～ 卒業生・修了生のことば

高専生活を振り返って

機械工学科 5年 加藤 夏洋

5年前、緊張しながら受験をし、誇らしげに入学式に参加したことを今でもよく覚えています。低学年のころは卒業までまだまだ先だろうな、と楽観視していたにもかかわらず、それからあっという間に卒業を控え、月日の短さを痛感しています。

私にとって高専生活を振り返って最も印象に残っていることはやはり部活動です。1年のころからサッカー部に所属し、たくさんの友達や先輩、後輩と出会うことができました。低学年の時の高専大会で敗北し、「次こそは全国に行こう」と決起して頑張っていたことも今では懐かしい思い出です。

当時の部長には頼もしくチームを引っ張ってもらい、練習や試合などサッカーのみに集中することができました。私が部長を引き継いだ時に、歴代の部長は試合の申し込みなどの庶務もこなしており、こんなに忙しいことをこなしていたのかと非常に驚いたことを覚えています。

私は当時のサッカー部をあまりまとめることができず、全国大会出場をすることができなかったことを自分自身非常に悔んでおり、部員にも申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、部活動を通して人とかかわりや、上に立つものの難しさ、一つのことに打ち込むことなどの大事さ、価値を実感する非常に貴重な経験となり、自分の財産となっています。

部活動を引退してからは、高専祭やクラスマッチなどの行事をクラスで一丸となって取り組みました。高専祭で早い時期から殺陣を一生懸命練習し、時にはぶつかり合うこともありましたが、5年連続優勝できたことは最高の思い出となっています。

高専は自由な校風なので、自分から動いて楽しいこと、打ち込めることを見つけることが高専生活を充実させ、楽しむための秘訣ではないでしょうか？

最後になりましたが、今まで支えてくださった先生方、高専生活を共に過ごした友達、そして家族には心から感謝の気持ちを述べたいと思います。

本当にありがとうございました。



高専生活を振り返って

電気電子工学科 5年 園田 総生

高専に入学してから5年という年月が流れ、気が付けばもう卒業という感じがします。この5年間は私の感覚ではとても短く感じられましたが、一方でとても充実した5年間だったともいえます。ですが、いまだに卒業するという実感がわからないのが正直な気持ちです。

高専生活を振り返ってみて、一番印象に残っているのは、やはり部活動です。私はバドミントン部に所属し、1年生の4月から5年生の夏まで続けました。入学当初は右も左もわからず戸惑っていましたが、部活動の先輩方を見て、一緒に部活動に打ち込んでいく内に高専生活のノウハウを学んできました。その環境のおかげで部活動をのびのびとやることができました。しかし学年が上がっていくにつれ、同級生の仲のよい部員が減っていき、とても寂しい気持ちになることもありました。そして私たちが部を引っ張る世代となり、同級生が私を含めて2人となったときにいろいろな理由が重なり、私が部長を引き受けることになりました。しかし私はバドミントンの実力もあまりなく、部長という責任ある立場も初めての経験だったので、かなり戸惑いがあり、なかなか上手く部をまとめることができませんでした。部を引っ張っていくことの難しさを痛感し、苦悩するときもありましたが、先生や先輩に相談に乗ってもらい、後輩と意見を言い合いながら部長という任を何とか全うすることができました。その経験から人に自分の意見をうまく伝えることの難しさ・大切さを学ぶことができ、そのことは将来にも役に立つ財産となるでしょう。

今考えてみると部活動以外にも、3年生から授業教科数も一気に増えて、さらに実験のレポートがあつと、とても大変な日々を送っており、常に何かに追われていた気がします。クラスの方では、あまり活発なほうではなく、シャイであまりクラスでは目立たないような存在でしたが、4年生のころからは級長を引き受けたので、任された仕事は責任を持って何とかやり遂げました。社会人として、これらの経験もこれから生かしていけたらと考えています。

最後に、今まで支えてくださった先生方、高専生活をともに過ごしてきた友達、そして家族には心から感謝の気持ちを述べたいと思います。本当に今までありがとうございました。

～特集～ 卒業生・修了生のことば

さよなら、級長

制御情報工学科5年 川上 拓朗

5年間、先生に言われるがまま「級長」として働いてきました。勿論、渾名も「級長」。あまりにも「級長」が浸透してしまい、クラスの中には今でも本名を知らない人がいるかもしれません。

最初から、自分には向いていないと思っていました。クラスをまとめるなんて柄じゃない。本来なら、クラスの隅っこで平穩無事な高専生活を送っていたはず。

残念ながら、波風は立つのでした。クラスマッチ、高専祭、体育祭……。行事の度にクラスは揉めました。名ばかり級長の下、率先者がいなければそれは仕方の無いことです。それでも何とか、この日を迎えることができました。何をやるにも随分のんびりとしたクラスで、先生方には、制御科始まって以来の落ちこぼれ学級という烙印を押されましたが、僕はそんなクラスの雰囲気がとても居心地よく、大好きでした。それに、やるときはやるクラスです。進学も就職も、例年に引けを取らない快進撃を見せることができました。

振り返ると、たくさんの行事をこなしてきたことよりも、皆で先生の愚痴をこぼしたり恋の話をしたりした昼休みや、カラオケで徹夜したことなどを思い出します。そして今、改めて個性ある先生方やオタク色の強い友人たちに支えられて、ここまで来たのだと実感しています。僕は、良い師と仲間を持つことができました。心から感謝です。

この5年間で分かったことがあります。やっぱり僕は、リーダーには向いていません。しかし、忙しくも楽しい経験をさせて貰いました。大学では、気ままな学生生活を期待しています。

季節は、春。桜の咲く新しい季節に、恋の予感がします！名残惜しい気持ちもありますが、言わなければなりません。さよなら、皆！！さよなら、級長！！凹む時は、思い出しましょう。一構えろー！制御健児、元気あるかああ！オス！オス！！オス！！

—完—

卒業にあたって

生物応用化学科5年 筒井 亮太

寒かった冬が終わり、春が来ようとしている。この季節になると河川敷にぼつぼつと黄色い菜の花が咲き始め、「ああ今年も春が来るんだなあ。」となんだか嬉しくなったりしたものだ。しかし、今年はそんな菜の花を少し寂しい気分で眺めている。できれば春がきて欲しくないような、そんな気持ちだ。こんなにも楽しかった高専生活が終わりを告げようとしていた。思えば1年生の時の夜須宿泊研修に始まり、この5年間は1年1年が楽しい事だらけだった。入学したばかりの頃は、高専での生活がこんなにも楽しいものになると思っていなかっただろう。日々の雑談、様々なイベント、どれも鮮明に覚えている。

楽しいばかりではなく、この5年間で僕は本当に多くのことを学ぶことができたと思う。それは勉強の事であったり、人間関係の事であったり様々だ。本当は前者が特にと言えきかもしれないが、僕は特に後者のことが大きいと思う。高専というのは特殊な学校である。高校生と違い、3年ではなく5年間も学生生活がある。さらにその間はクラス替えというものが無いというのも特徴であると思う。5年間も一緒にいれば、その人のいい所・悪い所様々な面が見えてくる。中学校の頃は、一度悪い所が見えてしまってもクラス替えによってあやふやなまま離れてしまっていたが、ここではそれは無い。その人を深く知ることが出来る。見直すチャンスがある。自分の事だってそうである、皆が僕の事を見ていてくれたおかげで、今の自分というものがあると思う。そうやって日々高め合い、苦しい事・楽しい事すべてを共有して来た仲間だからこそ、今の最高の関係があるのだろう。

しかし、僕たちは旅立たなければならない。5年間で作り上げた居心地のいい場所は、ここにおいていかなければならない。いつかまたみんなで咲き誇る河川敷の菜の花を見られるその日が来るように願って…

～特集～ 卒業生・修了生のことば

感謝感激雨霰

材料工学科 5年 筒井 あかり

高専生活を振り返ってみると、私は本当に色々な事をしてきました。学生会活動、実行委員会、学内外のボランティア活動、サッカー部マネージャー、アメリカ高校留学、編入学試験、体育祭の看板長、英語プレコンなどなど、数え切れないものに参加しチャレンジしてきました。それは、良くも悪くも、私の好奇心旺盛で後先考えない性格が大いに後押ししたと思います。そうした活動の中で、私は一緒に泣いたり、笑ったり、時には励ましあったりと色々な思い出を共有する仲間が出来ました。苦しくて辛い思い出も勿論ありましたが、そのすべてが決して忘れる事の出来ない私の大切な思い出です。

後輩の皆さんに伝えたい事は山ほどありますが、ここでは文字数の都合上その一部にしたいと思います。それは、やりたいこと興味あることは学生の間存分にやっておくことです。なにか一つだけでいいと思います。なにか自分の中でこれだけは"やってやったぞ"と言えるものを学生の間で作って下さい。そして、その中で、心動かされる沢山のもの、人に触れ、自分で考え、行動し、経験を積んで下さい。そして、そこでの出会いを大切にして下さい。人との出会いは人生での糧となり、財産となるはずで。在学生の皆さん、残された学生生活は着実に減っていています。悔いの残らないようエンジョイして下さいね！

最後になりましたが、私の今までの高専生活を支えてくれた家族、先生方、クラスメイト、また、高専で出会えたすべての皆さん、今まで本当に本当にありがとうございました。そして、これからも末永くよろしくお祈りします!!!



専攻科修了にあたって

機械・電気システム工学専攻 2年 安武 孝洋

高専に在籍した7年間は烏兔忽忽であり、とくに専攻科での2年が一番短く感じました。振り返ってみれば、専攻科はとても忙しかったものの、非常に充実した時間を過ごすことができました。専攻科に進学した時は、学部卒と専攻科修了は厳密には違うということから大学進学のをなぜ選ばなかったのだろうと悩んだ時期もありました。しかし、今では専攻科に進学してよかったと思っています。

なぜなら、専攻科には創造工学実験や長期インターンシップといった大学ではなかなか経験することのできない授業があったからです。創造工学実験では、様々な制限の中で目的のものを作るということの大変さを知り、長期インターンシップでは3カ月もの長い間企業で研修を受けることによって、仕事での人間関係の重要性、仕事の責任の重さなどを身をもって経験することができました。

また、専攻科では他分野の友達ができ、私にとって大きな刺激となりました。機械科の観点で大丈夫と思って設計したもので、制御や材料などの分野から考えると様々な問題点や改善策が出てくることが多々あり、何事ももっと広い目で見て考えないといけないということに気付かされました。大学院受験では友人たちと毎日夜遅くまで卒研室に残って勉強し、合格したら自分のことのようにみんな喜んでくれた思い出になっています。

来年度からプラズマ物理学という異分野への道を進みますが、大学院で一生懸命研究を行い、高専で学んだ知識そして知恵を胸に世界に貢献できる技術者へと成長できるよう頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、このように充実した素晴らしい学生生活を送ることができたのは、ひとえに高専の先生方と友人達のおかげであると思います。この場を借りて、先生方に厚く御礼を申し上げます。そして、高専で出会ったみんな、たくさん思い出をありがとうございます!!!

～特集～ 卒業生・修了生のことば

退職教員のことば

高専系男子より

専攻科物質工学専攻2年 佐々木 海

7年。これは専攻科を修了する人の最低高専在籍期間である。平均寿命が83才であるので人生の8.3%は高専に在籍したことになる。意外と少ない。しかし修了生の大半は卒業時22才である。つまり全人生の31.8%を高専で過ごしたことになる。良くも悪くも泣きたくなる。

では、この7年何をしたか？答えは単純、“楽しんだ”である。高専7年間どの瞬間も楽しかった。自分は祭りや騒ぎが大好きだったので、『踊る阿呆に観る阿呆同じアホなら踊らに損々』をモットーに、年間行事は特に楽しんだ。

修了を前に、ふと、歴代の高専生で自分が一番楽しんだのでは？と考える。誰もそんなことを表彰してくれないし、そもそも他人に決められるものではない。だから自分は、『自称：高専を最も楽しんだ男』である。

では嫌な事は1つも無かったのか？と問われると、それはもちろん否であり、嫌なことは山ほどあった。それでも楽しめたのは友人の存在が大きかったと自分は考える。自分は幸運なことに高専生活で莫逆の友と出会うことができた。本当に感謝している。

ここからは在校生への提言になるが、去るものの戯言として許して貰いたい。

高専は楽園（パラダイス）である！皆に卒業時に自分と同様に「高専で最も楽しんだのは自分」と思える程楽しんで貰いたい。だからこそ、勉学・部活・行事・アルバイト・遊びなど、何でも良いので本気で取り組むべきである。“青春してるなあ”と感じたらオールA判定だ。そして、1人でもいいので一生付き合っていける友を探して貰いたい。そうすれば高専生活の面白さは指数関数($a>0$)のごとく鰻上がりになる。高専生活、楽しんだ者勝ちだ。

最後に7年間という長い期間、自分を支えてくれた両親、先生方、友人、そして全ての高専関係者に只々感謝の気持ちでいっぱいである。もちろん高専を去ってからの人生の方が長いわけで、これからの人生を精一杯生きることで皆への恩返しとしたい。

最後の最後に『高専健児～元気あるか!!』

もし人生が300年あったら…？



一般理科 准教授
中坊 滋一

From: "Shigekazu Nakabo" <nakabo@future.dream.com>

To: "all-久留米高専教職員 "; "all-久留米高専学生 "; "all-久留米高専保護者 "

Sent: Friday, February 02, 2022 22:22

Subject: 未来より久留米高専の皆さんへ

早いもので私が高専を退職してからすでに200年余りが経ってしまいました。当時の記憶は定かではありませんが、あと10年の命と定め勇気を振り絞っての転身だったような気がします。その後の人類の進歩は恐ろしいもので、私も今や260歳。未来からこんなメールも出せるようになりました。今ではすべての人々が、何不自由なくそれぞれの人生を楽しんでいます。そうそう、私もつい100年ほど前に念願の武道館ライブを果たしましたっけ。さて、今日は…

この度、17年間の高専教員生活にピリオドを打ち、人生の次のステージに移行することにいたしました。17年といえば、私が小学校に入学してから（最初の）大学を卒業するまでにかかった年月と同じです。こんなに長居をしてしまったのも、この場所がとても居心地がよく、たくさんの人々にいつも導かれ助けていただいたおかげです。教師としては、中途半端な役割しか果たせませんでした。学生達に対して献身的でもなく、反面教師にもなりきれず。「やりたいことをやれ！しがらみにとられるな！金の心配なんかするな！」学生に相談を受ければ、偉そうに撒を飛ばしていましたが、自分の憧れを押し付けていただけでした。

優先順位は間違っていないだろうか？あと10年しか生きられないとしたら…。

そんなに忙しく慌てる必要があるのだろうか？人生300年あるとしたら…。

この矛盾した間に一つの解を出すために、私の場合17年の熟成期間が必要だったということなのではないでしょうか。教師の責任として、そしてお世話になった方々への恩返しとして、これからの残りの人生をかけて自分が学生達に主張してきたことを自ら実践・実験そして検証していきたいと思っています。

『自分自身が自分の最高のおもちゃ (by岡本太郎)』になったらいいな♪♪

200年後の再会を夢見て！愛しています。ありがとうございました。

◆海外留学記

ミシガン大学に留学して

材料工学科 准教授 山本 郁

私は、平成20年9月末より一年間、アメリカ・ミシガン州にあるミシガン大学材料工学科に留学しました。

ミシガン大学があるミシガン州は、周りを五大湖に囲まれており、また、フォード、クライスラー、GM（ビック3）など、アメリカの自動車会社の本社があるところとして、皆さんもご存知と思います。

ミシガン大学は、1817年に創立されたアメリカでも古い大学で、現在では19学部があり、そのキャンパスは主にAnn Arbor市（デトロイトから車で約45分）にセントラルキャンパス（大学本部、文系キャンパスおよび病院）」、ノースキャンパス（主に工学部）、サウスキャンパス（フットボール場やゴルフ場などのスポーツ施設）と市内に分散しています。特に、セントラルキャンパスは、ダウントウンに位置し、ビルやお店などと一緒に街中に溶け込んでおり、非常に古い建物もあちこちに点在しています。また、市内には、公園や森が多くあり、キャンパス内にも、リスが走り回って、鹿やスカンクもいました。これらのキャンパスは、大学の無料バス（通称ブルーバス）が回っており、大学の学生、職員だけでなく、市民も気軽に乗ることができます。また、市内を走っているバスも大学の身分証があれば無料で乗れます。

大学の学生は、非常に学習意欲に溢れていました。24時間開館している図書館には、学生がたくさんおり、また、バスの中でも、本や文献を真剣に読んでいたり、友人達とディスカッションしています。夜中2時ぐらいのバスにも学生が乗って家に帰っている姿を目のあたりにして、私ももっとがんばらなければという意識を持つようになりました。

また、学生たちは、皆、ミシガン大学のロゴの入ったシャツやキャップ、大学グッズを身に付けて、その学生であることにステータスを感じているようでした。また、これらのグッズを売る店は市内に点在しており、老若男女皆、ミシガングッズを身につけており、市民と大学がそれぞれを支えあい、誇りに思っているのを肌で感じることができました。特に圧巻されたのは、アメリカンフットボールの試合があるときです。Ann Arbor市の人口は約11万人ですが、それと同じ収容人数のスタジアムはいつも満席です。朝から、大学の旗をつけた車が走り回り、大学のイメージカラーである紺や黄色の服を着て、パーティーや酒盛りをしています。人とすれ違うたびにGO BLUE!!と叫んですでにお祭り状態です。試合も皆があちらこちらで一喜一憂しています。こんなところにも、大学が生活の一部になっているのを実感しました。

私は、アメリカの人々が非常に自己主張の強い人ばかりというイメージを抱いていたのですが、おおらかで温かい人柄

に触れ、日本人にはない気さくさに驚きました。確かに、主張するときは強いのですが、よく知らない人でもすれ違いまに挨拶したり、話しかけてきたり、ジョークを言ったり困っているとすぐにヘルプしてくれたことも多くありました。

また、知り合った8歳のおばあちゃんが使っているテーブルに飾るナプキンリングを、自分の曾祖母から、代々受継いでいて、これを自分の娘や孫にあげるという話をしてくれたり、私には、ガラクタにしか見えないものなどをガレージセールで買って再利用しており、アメリカの傾向であると思っていた大量生産、大量消費だけでなく、物も大事にしていることを知ることができました。

今まで表面でしか見ていなかった外国で生活して、多くを学ぶことができ、とても有意義な一年間を過ごすことができました。この場をお借りして、このような機会を与えてくださいました、本校の校長先生をはじめ材料工学科の先生方、事務職員の方々にお礼申し上げます。



アメリカンフットボールのゲーム（ミシガンスタジアム）



ミシガン大学キャンパス

◆高専祭・体育祭

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
機械工学科4年 仲 智洋

今年も無事に、伝統ある高専祭を終えることができました。今年度は“決戦、小森野一丁目”というテーマを掲げて11月2日の前夜祭、3日の文化祭、そして高専祭の最後を飾る5日の体育祭の日程で行われました。

今年度は、高専祭が行われる時期に合わせるように、新型インフルエンザが学生を中心に流行し、高専祭の開催自体が危ぶまれていました。しかし、学生の皆さんがマスクをつけるなどの予防をしっかりとしてくれたおかげで、高専祭の前夜祭当日には、学級閉鎖もなく無事に開催することができました。学生の皆さん、本当にご協力ありがとうございました。

今後も、伝統ある高専祭が受け継がれ、ますます活気づいていくことを楽しみにしています。

・前夜祭（11月2日）

お昼に御輿が高専を出発し、学生たちの力強い声で久留米の街を練り歩きました。

夜には打ち上げ花火が夜空を鮮やかに彩り、高専祭の始まりにふさわしい前夜祭でした。

・文化祭（11月3日）

今年度は例年以上の来客数で、メインストリートは大勢の人々で歩けなくなるほどでした。出店、ステージ、各学科による公開実験、部活動などの展示と多くの学生たちの輝く場をご覧いただけたかと思います。

今回の高専祭を行うにあたってご協力いただきました教職員の皆様、地域住民の皆様、学生の皆さん本当にありがとうございました。今年度も大きなトラブルもなく進行でき、また大勢の方にご来場いただきました。第44回高専祭を大成功という形で締めくくることができ実行委員一同大変嬉しく思っています。

最後に、実行委員として頑張ってくれた皆さん、本当にお疲れ様でした。ありがとう!!



高専らしい体育祭

体育祭副実行委員長
電気電子工学科3年 中島 蓮

今年の体育祭は、雨天の影響により竹取や矢倉など、全ての準備を前日に行う事になってしまい、学生や実行委員にとってもハードスケジュールの中での体育祭となりました。しかし、本番ともなると快晴に恵まれ、実行委員含め全高専生の協力によってプログラムの時間もさほど押すこともなく、無事に終えることができました。

今年も朝から謎の戦隊五人組（ネジレンジャー）が出てきたり、変装して競技に出場する人など様々なパフォーマンスが見られました。他の学校では絶対にあり得ない事で、学生だけでなくご来賓の方々も存分に楽しめたのではないのでしょうか。応援合戦に至っては、高専生として普段の姿からは想像できないくらい素晴らしい演舞を披露してくれました。騎馬戦では、ものすごい接戦を繰り広げ、ここ数年の中で一番の盛り上がりになったに違いありません。この様に素晴らしい体育祭ができるのも、1～5年生までの学年があるという高専ならではの形態があるからだと思います。4、5年生が陽気に盛り上がっている事で、下級生がその雰囲気や溶け込みやすくなり、学生全員が楽しめているのではないかと思います。

この伝統ある高専の体育祭が、来年、再来年・・・とより一層素晴らしくなることを実行委員一同心から楽しみにしています。また、課題でもある体育祭の参加人数が増えることも期待します。

最後に、体育祭を開催するにあたって協力して下さった教職員の皆様、保護者の皆様、地域住民の皆様方に深く感謝いたします。実行委員のみなさん、お疲れ様でした!



◆課外活動に関する各種大会での成績

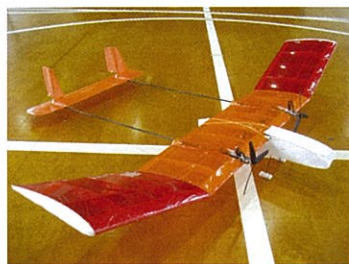
飛行ロボットコンテスト

機械工学科 5年 加藤 英二

2009年9月20日に幕張メッセで行われた「第五回 全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」にて、飛行競技5位およびベストデザイン賞を受賞しました。本大会は室内で遠隔操縦可能な航空機を設計・製作し、飛行を競うというもので、航空工学教育の推進のために日本航空宇宙学会主催で開催されています。日本国内外の大学や高専等から48チームが参加しており、久留米高専からは2チームが出場しました。ベストデザイン賞は最も優れた設計を行ったチームに与えられるもので、機体の操縦安定性等が高く評価されての受賞となります。

大会を通してモノづくりの楽しさや喜びを感じることができるので、飛行機に興味がある学生は是非参加してみてください。

大会の詳細は<http://www.indoorflight.t.u-tokyo.ac.jp/>からどうぞ。



飛行競技5位、
ベストデザイン賞を受賞した
「リンリン号」

第3回全国英語プレゼンテーション大会に参加して

材料工学科 5年 中村 美希

材料工学科 5年 筒井 あかり

生物応用化学科 5年 井上 いづみ

私達は東京で開催された第3回全国高専英語プレゼンテーション大会（通称プレコン）に参加しました。プレコンは3人1組で自由な題材についてプレゼンを英語で行う、英会話部でなくとも参加できる高専3大大会（ロボコン・プレコン・プロコン）の一つです。久留米は「An Ideal Automobile to Change Our Future」というテーマで、11月の予選突破を目標に、10月頃から原稿作成、練習に励みました。久留米らしさや私たちの仲の良さを前面に出した独創性あふれる内容は予選で高評価を頂きました。初の全国出場を大会HPで知った時は、かなり興奮しました。卒研で多忙な時期でしたが、短時間でも集まり、さらに磨きをかけ1月の全国に挑みました。残念ながら入賞こそ逃しましたが、多くのものを得ることが出来、大変満足しています。一番大切にしたいのはそこで出会えた全国の仲間達です。そこで得た刺激は私達の大きな財産になっています。

参加の意欲があれば、少々英語が苦手でも大丈夫、来年は全国で賞を獲ってきてもらいたいです。興味のある人は友達を誘って是非是非プレコンに挑戦してみてください！Yes, You can do it!!



学校外で自分の力を試そう

～2つの論文コンクールに参加して～

電気電子工学科 2年 中島 照人

私は2009年度に実施された「第53回全国科学学芸コンクール 人文社会科学研究部門」と、「第3回オリент世界作文コンクール」に論文を投稿し、両コンクールで入選することが出来ました。「全国科学学芸コンクール」は、旺文社主催、内閣府・文部科学省・環境省後援の小学生から高校生までを対象にしたコンクールで、研究部門の他にもアート部門、文芸部門があり、今回の応募総数は73,005点でした。「オリент世界作文コンクール」は日本オリент学会が主催する作文コンクールで、今回のコンクールでは10名が入選しました。

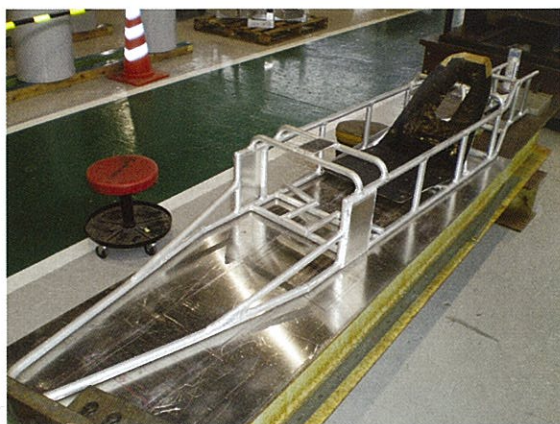
「全国科学学芸コンクール」では、「古代アレクサンドリアが持っていた学術的影響力」というテーマで、西暦前4世紀のアレクサンドリア建設直後に設立された王立学術研究機関ムセイオンの学術的影響力について、その空間的な面と時間的な面に分けて調査し、まとめました。これは元々本校の世界史の授業のレポート課題のために作成したものでしたが、先生が授業中にその課題に関して「授業内の評価だけで満足せず外の世界に出て行ってほしい」と言われ、作文コンクールに応募することを勧められたため、先生に何回か添削を依頼し、応募しました。「オリент世界作文コンクール」には、字数制限の関係で、その論文の内容をムセイオンの空間的な影響力だけに限定して更に掘り下げて調査し、「古代アレクサンドリアの学術的影響力が及んでいた地域」というテーマで応募しました。

この取り組みを通して様々なものを得ることが出来ました。その中でも特に大きいのは自分の欲しい情報を調査する力と、論理的な文章を構築する力だと思います。最後に、添削に応じて下さった先生に感謝したいと思います。

専攻科インターンシップを終えて

機械・電気システム工学専攻 2年 町田 竜太郎

10月19日から12月29日までのおよそ二ヶ月間、筑紫野市山家にある株式会社ワキタハイテクスという企業へインターンシップに行きました。そこでは主にアルミの溶接を行っており、アルミ製の容器や治具、その周辺部品を製造しています。私がこの企業に申し込んだ理由は、アルミ溶接を学び、それを応用して本科5年生の頃から行っているエコランカーのフレームを製作するためでした。インターンシップ期間中、午前中は製品の組み立てや梱包、検査などの会社の業務を行い、午後からはエコランカーの製作を行うというスケジュールで製作が進みました。フレームの製作は設計から始まり、材料の選定、材料の機械加工、溶接まで、すべてを自分たちで行いました。その中でも溶接は特に難しく、練習に多くの時間を費やしました。溶接をほとんどしたことがない状態で設計をしたということもあり、溶接が困難な部分も多くありましたが、社員の方々に助けられながら、大きな失敗やケガもなく、無事にフレームを製作することができました。エコランカーのフレーム作りは達成感も大きく、非常に充実したインターンシップが送れたと思います。インターンシップを通して、学校で体験できなかった様々な体験ができ、たくさんの技術を学ぶことができました。また、ワキタハイテクスの方々は非常に優しい方々ばかりで、フレーム作りで困ったときに多くの技術的指導をしていただき、社員の方々の協力なしではフレームを作ることは不可能でした。ワキタハイテクスの方々やエコランカーのフレーム作りのおかげで非常に有意義で充実したインターンシップを送れたと思います。今後はこの経験をものづくりや就職活動に活かしていきたいです。



新型インフルエンザの大流行について

教務主事 馬越 幹男

本校では、平成21年8月中旬から新型インフルエンザに感染する学生が出始めました。2月初旬の感染状況及び本校の対応について報告します。

本校としては、9月の授業再開時に、学生及び教職員への手洗い励行等の注意事項の周知、連絡体制の確立、感染学生の公欠扱いに関する取り決め等を行い、学生、保護者、教職員に周知しました。しかし、10月になりますと感染者が徐々に増えまして、10月に2クラスの学級閉鎖に踏み切り、さらに11月の高専祭の翌週から感染が猛威を振るって、約1ヶ月の間に7クラスを学級閉鎖にしました。その後は沈静化していますが、これまでに感染あるいは感染の疑いがあった学生は約300名、教職員は13名です。

この間、学年暦に従いまして、局面は目まぐるしく変化し、新型インフルエンザに翻弄された感があります。授業、試験に対しては補講、追試験に学生、教員ともに追われた感があります。また、高専祭は、学生にとって一大イベントでこれを実施するかどうかは大問題でしたが、学生主事室と高専祭実行委員会が綿密に協議し、実施前の感染予防、実施した場合の感染予防、どういう場合に中止にするのかといった事柄を詰めた上で、文化祭、体育祭ともに開催できました。高専祭の実施については、学生の参加者減、神輿等の安全の確保といった問題を潜在的に抱えていますが、それに加えて今回の新型インフルエンザの流行の中での実施は、やはり学生が自ら企画、運営している本校の高専祭であればこそだと思います。

振り返ってみますと、学年閉鎖や休校には至らずほぼ学年暦通りに運営できたのは、学生、保護者の皆さんや教職員のご協力のおかげだと感謝する次第です。学生の皆さんには、引き続き感染予防にご協力ください。

この大流行を通じて感じたことは、感染拡大を止めることの困難さ、確実な情報の迅速な把握の困難さ、その情報の公開と対応策の速やかな周知の大切さ、素人判断せず各部署の綿密な連携の必要性です。特に重篤な症状を伴う流行の場合には、今回の対応では後手に回ることが懸念されます。同時に、大流行に対して冷静な対応が必要で、学校という公共の場が感染源になってしまうということも肝に銘じておく必要があるように思います。

◆平成21年度 進学状況

平成21年度 大学編入学進学状況等

平成22年3月1日現在

大学名	合格者数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計
豊橋技術科学大学 (推薦)	2		1		1	4
豊橋技術科学大学 (学力)				2	1	3
長岡技術科学大学				3		3
九州大学 (工学)	3	1	1	1		6
九州大学 (経済)			1			1
九州工業大学 (工学:推)	2				2	4
九州工業大学 (情報工学:推)		1	1			2
熊本大学 (工学:推)	1	2	1	2	1	7
熊本大学 (工学:学)			2		2	4
山口大学 (工学:推)		1				1
広島大学 (工学)				1		1
広島大学 (生物生産)				2		2
京都大学 (経済)			1			1
東京大学 (工学)			1			1
東京工業大学 (工学)			1			1
筑波大学 (情報学)			1			1
東北大学 (工学)					1	1
秋田大学 (工学資源:推)	1					1
その他 (専門学校など)		1			1	2
合計	9	5	11	11	8	44

平成21年度 久留米高専専攻科進学状況

平成22年3月1日現在

学校名	合格者数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計
久留米高専専攻科 (推薦)	7	5		4	7	23
久留米高専専攻科 (学力) 前期	1	4	1	5	1	12
久留米高専専攻科 (学力) 後期		1	3	2		6
合計	8	10	4	11	8	41

平成21年度 専攻科 大学院進学状況等

平成22年3月1日現在

大学院名	合格者数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
九州工業大学大学院	1		1
東北大学大学院	1		1
九州大学大学院 (総合理工学府)	2	5	7
九州大学大学院 (統合新領域学府)		1	1
九州大学大学院 (システム情報科学府)	1		1
名古屋大学大学院	1		1
豊橋技術科学大学大学院		2	2
合計	6	8	14

平成21年度 (平成22年3月) 卒業予定者の就職内定状況

平成22年3月1日現在 久留米工業高等専門学校

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
IHIユニテッド	NTTネオメイト	富士通電機システムズ	微生物化学研究所	三菱重工業
一井工業	パナソニックエレクトロニクスデバイス	西日本旅客鉄道	武田薬品工業(2名)	明治乳業
レンゴー	RICOHテクノシステムズ	三菱重工業	エクソンモービル(2名)	東亜石油
ラサ工業	戸畑共同火力	住友精化	三菱ガス化学	川崎造船
第一精工	日本たばこ産業	富士通	久原本家	キリンビール
トヨタ自動車九州	福岡酸素	オプティム	昭栄化学工業	東伸熱工
JAL航空機整備	DOWAサーモエンジニアリング	矢崎総業	九州グリコ	アスカコーポレーション
日本たばこ産業	久留米ガス	三菱電機システムサービス	キリンビール	サンコー福岡
カンセツ	九州電力	高畑精工	明治乳業	東プレ
三菱重工業	京セラコミュニケーションシステム	TOWA	東洋新薬	昭和鉄工
イシモクコーポレーション	日立メディコ	ジェイエムエンジニアリング	協和発酵バイオ	矢崎総業
オーレック	ブリクストンプラントエンジニアリング	大和製罐	トクヤマ	久原本家
鳥栖キュービー	西日本プラント工業	関西電力	味の素(2名)	森永乳業
本田技研工業	大和製罐	東芝プラントシステム	ココロウエストプロダクツ	鳥栖ガス
	東海旅客鉄道	三菱重工業	ダイキン工業	アスカコーポレーション
	モリタ製作所	シャープビジネスコンピュータウェア	第一三共プロファーマ	西日本旅客鉄道
	栄光ゼミナール		大日精化工業	INAX
	第一精工		藤井養蜂場	
	富士通		北九州エル・エヌ・ジー	
	西日本旅客鉄道		シオノギ分析センター	
	東芝エレベータ		大塚製薬	
	学力向上会		九州化工	
	明電舎		チッソ	

平成21年度 (平成22年3月) 専攻科卒業予定者の就職内定状況

機械・電気システム工学専攻	内定者10 男10・女0	東京エレクトロン九州、NHKメディアテクノロジー、西鉄電設工業、川崎造船、KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、アイシン精機、牧野フライス製作所、キューキ、日本原子力発電、三菱重工プラント建設
物質工学専攻	内定者8 男2・女6	森永乳業、リコー、新川電機、大日精化工業、協和発酵バイオ、中外製薬工業、丸東産業、沢井製薬

平成22年度 学年暦

前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜
1 木	1 土	1 火	1 木	1 日	1 水	1 日	1 水	1 日	1 水	1 日	1 水
2 金	2 日	2 水	2 金	2 月	2 木	2 火	2 木	2 月	2 木	2 火	2 木
3 土	3 月	3 木	3 土	3 水	3 金	3 水	3 土	3 火	3 金	3 木	3 金
4 日	4 火	4 水	4 日	4 木	4 土	4 木	4 日	4 水	4 土	4 火	4 土
5 月	5 水	5 火	5 月	5 金	5 日	5 金	5 月	5 木	5 日	5 火	5 日
6 火	6 木	6 水	6 土	6 日	6 月	6 火	6 土	6 金	6 月	6 火	6 月
7 水	7 金	7 木	7 日	7 月	7 水	7 水	7 日	7 土	7 火	7 火	7 火
8 木	8 土	8 金	8 火	8 火	8 木	8 木	8 日	8 日	8 水	8 水	8 水
9 金	9 日	9 水	9 水	9 水	9 金	9 金	9 月	9 木	9 木	9 木	9 木
10 土	10 月	10 木	10 木	10 木	10 土	10 土	10 火	10 金	10 金	10 金	10 金
11 日	11 火	11 水	11 金	11 日	11 日	11 日	11 水	11 土	11 土	11 土	11 土
12 月	12 水	12 木	12 土	12 土	12 土	12 土	12 木	12 日	12 日	12 日	12 日
13 火	13 木	13 金	13 日	13 日	13 日	13 日	13 火	13 金	13 金	13 金	13 金
14 水	14 金	14 土	14 月	14 月	14 月	14 月	14 水	14 土	14 火	14 火	14 火
15 木	15 土	15 日	15 火	15 火	15 火	15 火	15 木	15 日	15 水	15 水	15 水
16 金	16 日	16 水	16 水	16 水	16 金	16 金	16 金	16 月	16 木	16 木	16 木
17 土	17 月	17 木	17 木	17 木	17 土	17 土	17 火	17 火	17 金	17 金	17 金
18 日	18 火	18 金	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 水	18 土	18 土	18 土
19 月	19 水	19 木	19 水	19 土	19 土	19 土	19 月	19 木	19 日	19 日	19 日
20 火	20 木	20 金	20 日	20 日	20 日	20 日	20 火	20 金	20 月	20 月	20 月
21 水	21 金	21 土	21 月	21 月	21 月	21 月	21 水	21 土	21 土	21 火	21 火
22 木	22 土	22 日	22 火	22 火	22 火	22 火	22 木	22 日	22 日	22 水	22 水
23 金	23 日	23 水	23 水	23 水	23 水	23 水	23 金	23 月	23 月	23 木	23 木
24 土	24 月	24 木	24 木	24 木	24 木	24 木	24 土	24 火	24 火	24 金	24 金
25 日	25 火	25 金	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 水	25 水	25 土	25 土
26 月	26 水	26 木	26 水	26 土	26 土	26 土	26 月	26 木	26 木	26 日	26 日
27 火	27 木	27 金	27 日	27 日	27 日	27 日	27 火	27 金	27 金	27 月	27 月
28 水	28 火	28 水	28 月	28 月	28 月	28 月	28 水	28 土	28 土	28 火	28 火
29 木	29 土	29 金	29 火	29 火	29 火	29 火	29 木	29 日	29 日	29 水	29 水
30 金	30 日	30 水	30 水	30 水	30 水	30 水	30 金	30 月	30 月	30 木	30 木
31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 土	31 土	31 土	31 火	31 火	31 火	31 火

本学掲載記事の無断転載を禁止します